

現状・課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症患者の入院受入に当たっては、感染症病床だけでは対応できないため、一般病床や廃止・休止病床を活用
- ・ 感染症患者の受入には、手厚い看護体制が必要であるが、人材がすぐに確保できない

今後の新興感染症の発生に向けて

新たな感染症の流行に備え、平時から患者受入病床を確保しておく新たな制度が必要

《提案内容》

- ・ 感染症の流行時に、県の要請によって患者を受け入れる病床を「感染症病床に準ずる病床」（平時は一般病床として使用）や「危機対応病床」（平時は使用せず）として**指定**
 - ・ 指定を受けた医療機関は、診療報酬や補助金等の支援により、流行時に対応できるよう**看護師等を平時から余力を持って保持**（当該看護師等を「感染症に準ずる病床」に一般病床に比べ手厚く配置し、平時は病棟勤務以外に地域医療等にも従事）
- ⇒ 流行時に、速やかに患者受入体制が整えることが可能に

